

記者配布資料

平成 29 年(2017 年) 2 月 13 日

所属名	所属長名	部局長名	担当者職・氏名	連絡先
山口県立大学	学長 ながさか ゆうじ 長坂 祐二	地域共生センター 所長 か と だ けいこ 加登田 恵子	国際文化学部 教授 あんけい ゆうじ 安溪 遊地	☎083-928-5496
発表内容の 関係地域	[<u>全県</u>]、岩国、柳井、周南、[<u>山口</u>]、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、萩、首都圏			

1 件名

地域公開ワークショップ「みんなちがって一文化や宗教の違いを保ったまま共に生きるには」の開催について

2 趣旨

地（知）の拠点整備事業（COC 事業）では、山口県の地域課題解決に向けた学際的研究の一環として「やまぐち学」研究チームを構成し、県政課題である「コミュニティづくりや交流人口の増加」に対応した県民の生活の質（QOL）の向上に資する総合的な研究（山口県のインバウンド観光に資する新やまぐち学の構築—「グローバルやまぐち」としての観光文化学—）を行っています。

この「やまぐち学」研究の一環として、ボストン大学教授であり本学客員教授のアダム・セリグマン教授を迎えて一泊二日のワークショップを行います。

セリグマン教授は、2003 年にボスニアとヘルツェゴビナ、クロアチアで文化と宗教の違いを実感するための合宿、CEDAR プログラムを行いました。その後、毎年ブルガリア、イギリス、イスラエル、インドネシア、ウガンダ、アメリカなどで開催し、のべ 50 か国から学生、社会人、宗教指導者と社会のリーダーたち合計 500 人が参加してきました。

今回のプログラムでは、まず神社や教会を訪ねて参加者の間の違いを実感しつつお互いを知り、その後自然に囲まれた徳地青少年自然の家に移動して CEDAR の 2 週間を凝縮させた経験を共有します。文化や宗教が異なる様々なアイデンティティをもった人々がともに暮らし、互いに譲れない違いがあることを認め、「他者」から学ぶというプログラムを、あなたも実際に体験してみませんか。きっと「みんな違ってみんな変（いい!）」を実感できるでしょう。

3 日時

平成 29 年 2 月 19 日（日）～20 日（月）一泊二日

4 場所

徳地青少年自然の家（集合・解散場所は山口県立大学）

5 参加費

食費、シーツ代 (3,500 円程度) は個人負担
宿泊費および大学からの往復交通費は不要

6 使用言語

日本語、英語 (通訳あり)、その他

7 プログラム

別添チラシ参照

8 申込み・問合せ先

下記へメールにてお申込みください。(先着 20 名)

山口県立大学国際文化学部 教授 安溪 遊地
メール:y@ankei.jp



みんなちがって

—文化や宗教の違いを
保ったまま共に生きるには

Living with Difference:

An Experiential Workshop on

Tradition and History

「😊」 地域公開 WORKSHOP 「😊」

ボストン大学教授で山口県立大学客員教授の
アダム・セリグマン教授を迎えて
一泊二日のにぎやかなワークショップ!!

▶講師のセリグマン教授。山口県立大学のしいたけ山にて。



日時：2017年 **2月19日** (日) ~ **20日** (月)

場所：徳地青少年自然の家 (山口市徳地船路 668 tel 0835-56-0111)

参加費：食費+シーツ代 200 円のみ。

全行程で 3500 円程度。宿泊費と交通費はかかりません。

使用言語：日本語・英語 (通訳あり)・その他

◆今 私たちとはまったく違う人たちと、平和に共存できる世界はどうしたらつくれるのでしょうか。テロや内戦や差別のない世界をつくることはできないのでしょうか。

セリグマン教授が音頭をとって、2003年にボスニアとヘルツェゴビナとクロアチアで2週間のプログラムを行ったのが、文化と宗教の違いを生きるための2週間の合宿、CEDARプログラムです。その後、毎年ブルガリア、イギリス、イスラエル、インドネシア、ウガンダ、アメリカなどで開催してきました。のべ50カ国から学生、社会人、宗教指導者と社会のリーダーたち合

計500人が参加してきました。

敬虔なユダヤ教徒であるセリグマン教授自身、日本では肉食



をされず、魚介類は鱗とヒレのある魚のみを食べられます(貝類・イカ・タコ・エビ・カニ・ウナギはだめ)。また金曜日の日没から土曜日の日没までは、安息日として、車に乗ったり、料理をしたりされません。一泊二日をともに過ごし、なぜその

ような生き方をするのかそれを伺うだけでも、すでに日本人には新鮮な「未知との遭遇」です。

文化や宗教が異なるさまざまなアイデンティティをもった人々がともに暮らし、互いに譲れない違いがあることを認め、「他者」から学ぶというプログラムを、実際に経験してみませんか。

まず、神社や教会を訪ねて、参加者の間の違いを実感しつつお互いを知り、その後は、自然に囲まれた徳地青少年自然の家に移動して、CEDARの2週間を凝縮させた経験を共有します。きっと「みんな違ってみんな変(いい!)」を実感できるでしょう。

●スケジュール(変更の可能性あります。)

2017年2月

19
(日)

午前8:30 山口県立大学集合
神社と教会を訪ねるフィールドワーク
午後 講義と活動: CEDARプログラムの紹介

20
(月)

午前 講義と活動: 平和な世界をつくるには
午後 活動とまとめ: 山口での課題を考える

(山口県立大学解散18時の予定)

徳地は
寒いです。
あたたかい
服装を。

●主催

山口県立大学COC(地(知)の拠点)プログラム やまぐち学研究(責任者:岩野雅子)
〒753-8502 山口市桜島3-2-1 山口県立大学異文化交流論研究室

●お問合せ・お申し込み(Eメールでお願いいたします。先着20名様までとなります。)

山口県立大学国際文化学部教授 安溪遊地(あんけい・ゆうじ) y@ankei.jp